

No.330
2018
5/31



はちおうじ

JR東労組
八王子地本
八王子地本
ホームページ
「東労組八王子」で検索



JR東労組「駅の将来展望についての申し入れ」 申18号 第2回交渉を行なう！

5月25日、JR東労組本部は申18号「駅の将来展望についての申し入れ」第2回交渉を行いました。

■急激な世代交代に伴う技術継承、人材育成の観点から「常時運転取扱いのある駅」「新幹線停車駅」「地区駅」についてはJR本体での一括運営とすること。なお、これらの駅において既に委託されるコーナーについてはJR本体に戻すこと。「車椅子のご案内」業務や「遺失物搜索」の業務については、業務委託後、著しくサービスレベルが下がっていることから、対応力を向上させること。

《組合》 本体駅を育成する場として確認する。駅全体を学ぶために委託したコーナーも本体に戻すべき。

《会社》 一部コーナーのラッチ内が経験できないことはあるかもしれないが、それをもって育成出来ないとは思っていない。教育という視点から見て会社として戻す考えはない。

《組合》 コーナー委託の認識は一致しない。弊害や課題があるという認識。取扱いの統一性に欠けている。新幹線の振替で乗り越えた場合の精算でJESS・本体と対応が異なり、お客様への公平性が損なわれている。

《会社》 水平分業しつつも管理者と連携取りながら課題を受け止めつつ、レベルアップを図っていく。

《組合》 駅の一体性を考えた場合、一部コーナーは限定していった方がいい。

《会社》 頻繁に問題が発生している訳ではない。切磋琢磨して相互にレベルを上げる事が解決に繋がる。

■「新販売拠点」の出札については、人材育成の必要性の観点等から引き続きJR本体の運営とすること。

《会社》 新販売拠点はNF2008から踏襲され、特段変わっていない。旅行業は全て移管していくが、最終的に新販売拠点が残っている所はお互い役割を果たしてお客様に分かりやすく対応していく。

《組合》 新販売拠点の位置付けは変わらない、フロア担当案内配置を確認する。具体的には地方議論も本部として議論をしっかりと行い進めていくことを確認する。

■申6号「安全第一、サービス品質向上、駅業務を担う人材育成を成し遂げ、鉄道事業所の使命を果たせる駅職場実現を求める申し入れ」で議論した「12項目」については、その役割が重なりあうほど、JR本体で運営する必要性が増すと考えられることから、JR本体で運営する駅とすること。

《会社》 常時運転取扱い駅は直営駅となる。

《組合》 委託や無人化、営業時間の見直しなど運営体制の変更について地元自治体と協議し、周知徹底した上で進めるという事で良いか。

《会社》 地元自治体との協議、調整を行ったのちに実施している。今後も変わらない。自治体とのやりとりは支社と管理駅長が行う。

■駅職場の将来展望に関わる各地本・支社間における議論については、議論する時間を確保し、労使での認識を深めたくて、信義誠実に行うこと。

《会社》 具体的には支社が委託予定駅を体制も含めて提案し議論していく。

《組合》 労使議論をし、社員説明となる。労使でやっていくという確認をしたい。

《会社》 時間軸、スピード感をもって進めていく。様々な問題等もあると思うが団体交渉の場でしっかり議論し進めていきたい。



本部団体交渉終了！ 今後地方交渉となります！！ 職場から問題点を集約し、営業職場の未来を創り出そう！